

## RBG - Ein Leben für die Gerechtigkeit

(原題:RBG 米、97分、2018年12月13日公開)

あらすじ

アメリカ連邦最高裁判所の判事9人の中の一人、85歳にして現役、性的そして人種的な差別に対し鋭く知的な意見で正義を貫き、かつてのあだ名 Notorious RBG にちなみRBGの名で、人々から敬愛され続ける Ruth Bader Ginsburg 裁判官のドキュメンタリー。



とにかく素晴らしい人物なのが伝わってくる。  
そして清々しい。

1933年3月15日にニューヨークのブルックリンで生まれたRuth Bader Ginsburg氏がHarvard Law Schoolに入学した当時、500人ほどの男子生徒に対して女子生徒は9人。彼女はその一人だそう。以来、弁護士、法律学者、判事として、男女平等のため長年に亘り闘い続けている。

1980年にJimmy Carter元米大統領からコロンビア特別区巡回区連邦控訴裁判所の判事に任命され、1993年には当時のBill Clinton大統領から米最高裁判事に任命された。この職務は終身制であり、現大統領を鑑み判事辞職の意を退けたので、85歳の今でもしっかりと現役。

ただ単に優秀なだけではない。

1970年代の初期に女性は夫の承諾を得なければクレジットカードも作れなかったアメリカ合衆国で、女性として自ら差別を受けながらも司法に関わり、裁判で不平等を正してきたのだ。

がんの術後は身体をジムで鍛え続け、現在は判事の仕事のみならず、講演会や奉仕活動にも精力的に参加して、虐げられた人々に勇気を与え、後進の法律家を励ましつづけている。

彼女を支える夫のMartin氏も弁護士。正しく、この妻にしてこの良人あり。

共同で作製に取り組んだBetsy West監督とJulie Cohen監督の、魅せるインタビューや記録映像を使いこなす凄腕も秀逸。

You can't spell truth without Ruth.

百聞は一見にしかず。

とにもかくにも、必見のRBGの姿を垣間見られる1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。

